

令和2年度認知症地域支援体制推進全国合同セミナーQ&A (令和3年3月19日)

報告テーマ：認知症の人とともに築く総活躍のまち”ごぼう” ～本人参画で条例・計画策定、中長期的な視点で取り組む～

報告：御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之氏

No	質問	回答
1	当事者本人に計画策定の委員になっていただいたとのことですが、認知症症状としてはどの程度の方だったのでしょうか？軽度の方だったのでしょうか。	条例作成ワーキングチームにご参加くださった本人は2名で、80歳と50代の方です。2人とも、ある程度進行しており、要介護認定を受けている人ですが、自分の思いを伝えてくださいます。軽度のときから進行するまでに気づいたことやこれからの思いを話してくださいました。また、この2名以外にも、市内の当事者数名にもヒアリングをさせていただき、その声もワーキングチームで共有させていただきました。
2	御坊市様 認知症地域支援推進員とコーディネーターの違いや使い分けは？	違いや使い分けは特にありません。コーディネーターの中から推進員を毎年数名ずつ配置していますが、推進員に対してこちらから業務委託契約などもしていませんので、これまで通りの活動を続けてもらうようにしています。
3	庁内連携会議ではどのようなテーマ、流れで話しをすすめているのですか？	まずは、それぞれの現場で認知症の人と関わるのがどのような場面であったかエピソードを共有。対応した職員の困りごととして捉えるのではなく、困っているのは本人なのでは？という視点で考える機会をつくりました。
4	認知症の人の視点の評価指標を教えてください。	はっきりと数値や事業達成目標というものは設けません。そういう指標があることで、その達成が「目的」になり、本人が置き去りになってしまう可能性もありますので、あくまで「本人の視点から見て暮らしやすいまちになっているか」ということですが、その暮らしやすさはこれから本人とともに検討していく予定です。
5	本人視点での評価はどんな視点でどんな内容で評価されていますか？少し、参考になるような事例みたいなのがあれば、少し聞かせて欲しいです。	例えば、認知症ケアパスについて。 本市が作ったケアパスを本人が見て「これはオレにしてみれば絶望でしかない。矢印が進めば進むほど誰かの世話にならないといけなくてこと？そんな人生、つまらないよ」と言われました。認知症になっても希望を持って～なんて言いながら本人が絶望するようなケアパスはどうか？と見直すきっかけになりました。このような、日常的な本人の言葉も評価のひとつだと思います。これがきっかけで「御坊市版本人ガイド」ができました。
6	谷口さんへ 本人の声を聞くというのが漠然としているので、何をもって聞いていると捉えてよいか迷うことがあります。（よく調査ものでも聞かれます。本人との会話ですてくる声・希望で良いと個人的には思うのですが）本人大使のみなさんはどのような声を届けてくださっているのでしょうか？	おっしゃる通り、本人との何気ない会話で出てくる声や希望が本人の声だと思います。その何気ない言葉に様々なヒントがあり、それをどのように仲間と共有できるかということが大切だと思います。大使の声を届けるというよりも、大使の普段の暮らしぶりを我々が発信することで「認知症になってもあのようになりたい」ということが伝わればと思っています。
7	高齢者福祉計画・介護保険事業計画 策定に認知症のある本人が策定委員として参加されていますが、ご本人からの発信で参加されたのですか？	本人の委員は、市から自薦他薦問わず公募で参加を呼びかけ、2名の方が介護事業所より推薦いただき、本人にも承諾をいただきご参加いただきました。
8	行方不明事案で市に情報提供がある件数は年間何件くらいでしょうか。	人口規模や高齢化によって地域性はあるかと思いますが、本市では年間5名いるかないか程度です。
9	吉田さん、谷口さん、近藤さんに質問です。 それぞれ認知症に関する施策を進めていく中で、都道府県のサポートとしてよかったものはありますか。また、都道府県に期待することはありますか。	とにかく、現場に来て本人との時間を共有していただく。例えば本市では「本人サミット」というのを開催していますが、そこに来ていただくだけで我々はとても心強く感じます
10	県の行政に期待することを教えてください。	市町村の思いを聞いていただき、その悩みや課題を共有してともに何ができるか考えていただけると嬉しいです。一方的に「国の方針だから」とか事業を押し付けるだけでは市町村は孤立します。 あと、県内の他市町村の職員や推進員と交流できる機会をつくっていただけたら嬉しいです。このご時世、zoom等もいいかと思っています。

視聴者から寄せられたコメント		
1	<p>家族からの相談が多いこともあり、本人の声をまだまだ聴けていないと感じています。本人の声を聴くことから始めるべきだと思いますが、認知症と宣告されていない、自覚がない、「何も困っていない。」ということが多く踏み込めずにいます。本人に、認知症について聞くことに躊躇してしまいます。</p>	<p>本人の自覚があるかないか、そこにこだわらなくていいと思います。何も困っていないのも、困っている場面で話を聞いているのじゃないので出てこないのだと思います。</p> <p>本人がその人らしく暮らしていくためには何が必要か。本市でも「オレは認知症なんかじゃない」と頑なに否定をされる方がいますが、でも地域で色々と活躍されています。その活躍している姿に「自覚」は必要ない人です。</p> <p>本人に認知症の自覚を持ってもらうための関わりは逆効果の可能性もあるので、あくまで「その人らしく暮らしていく」ことに視点を置くといいと思います。</p>
2	<p>条例制定に結び付くまでの過程が知りたいです。素晴らしい取り組みだと感じています。</p>	<p>本市の条例策定する前にいくつかの自治体がすでに施行されていましたが、本市では「本人視点に立った条例」を作ろうという機運が盛り上がり、本人とともにつくることになりました。詳細は、市のホームページに策定プロセスの資料がアップされていますのでご参照ください。</p>